6 野洲川上流域の活動団体との交流会

6-1 上流地域（平成30年12月16日）
小佐治の水田

（説明者：小佐治環境保全部会の方々）

水田内水路、雑草抑制ネット、獣害柵等を見学。冬期湛水、生きもの観察会、ホタルの保全活動についても、説明を受けた。
琵琶湖に接していないので、須原のように魚のゆりかご水田はできない。そこで、田んぼの中で生き物を育てるというやり方を取っている。
積水化学工業株式会社からFFU材を譲り受け、水路を設置。田んぼに水がない時期にも生き物たちが住めるようにしている。生き物観察会ではメダカ、アカガエル等、30種類ほど確認できている。水路を設置したら、すぐサンショウウオやアカガエルが来る等、応答が大変早い。また、土が特徴的。粘土質の土で、ズリンコと呼んでいる。古琵琶湖層の土であり、足を入れると抜けなくなる。最初は県の事業で、県の指導にも従いながら実施した。交付金ももらいながら活動している。

水田内水路の様子

（質疑応答）
Q:他でも水田内水路を設置している場所はあるのか？
A:あまりない。砂が多い土壌だと水が浸透してしまい、溜まらない。この土地、土壌に合った方法をやっているということ。

Q:ホタルは平家ボタルか源氏ボタルか？昔は平家ボタルがいたのでは？
A:ここでは現在、源氏ボタルと平家ボタルが同居している。

Q:水路の素材として木の杭や竹を使ってはどうか？
A:面白い。竹林もあるので、検討してみたい。

雑草対策（土手に抑制ネットを敷く）

湖南流域環境保全協議会.indd 23 2022/04/22 12:08

佐治川

大原ダムから、土橋池を経由して、流れ込む佐治川。農業用排水路でもある。コイ、ブラックバス、フナ、オイカワ、ドンコ等魚もいる。
濁水防止の取組として、地域の人々で週一回透視度をチェックしている。濁水が流れていたら、農家を特定し、指導している。上流であるという意識を持ち、徹底して取り組んでいる。また、県が作成したチラシの配布も行っている。

愛林クラブ・木の駅プロジェクトの方のお話

販売される薪の様子

メンバーで作ったという重量計測機

愛林クラブ・木の駅プロジェクト

（説明者：甲賀愛林クラブ・
甲賀木の駅プロジェクトの方々）

山の整備のアドバイス、チェーンソー・伐採・枝打ち等の研修会の開催、薪割の手伝いのほか、原木・薪・木工製品の販売を実施。また、地域通貨である「モリ券」を発行し、地域活性化にも繋げている。

湖南流域環境保全協議会.indd 24 2022/04/22 12:08

竹林道脇のサイホンを見学

大原ダムから写真のような水路が敷設されており、
山を通って、田んぼに水が供給されている。

大原川、生水

大原地区には、生水（湧き水「しょうず」と読む）
は10カ所くらいある。家で使用されているところ
も多く、鯉を飼っている家もある。

湖南流域環境保全協議会.indd 25 2022/04/22 12:08

大原ダム堤防

（説明者：大原共有財産区、　大原貯水池土地改良区の方々）

ダムは570haあり、甲子園球場120倍。約1000戸で草刈り等をして管理している。また120年前から大原小の生徒が卒業の際に植林をしている。美空ひばりのひばり御殿には大原のヒノキが使われている。大原のヒノキは中がしっかり赤い。また、財産区から大原小学校へピアノの寄付もした。太陽光発電も実施しており、環境学習に活用している。関電に売電しており、経常負担である水利費も削減できた。

昔から、日照りの影響で畔がひび割れをし、特有の土質も影響して、作業が大変だった。そこで昭和17年に県に要望し、ダムの建設が始まり、昭和28年に完成した。当時は労力で負担金を払っていたため、農家皆で作り上げたダムだとも言える。平成18年からダムの改修を開始し、580haの田んぼに水を供給している。改修の際にダムを空にしたのだが、生物はあまりいなかった。上流には生活排水が流れ込むこともなく、水質はきれいだが、貧栄養な状態と言える。

お話の様子

湖南流域環境保全協議会.indd　26　　2022/04/22　12:08

交流会の様子

●今後の交流に向けた意見交換
（当協議会メンバーからのコメント）

・南部の河川には工場排水が多い。水質もそれほどよくない。
・当協議会も財政が厳しくなってから、活動も縮小している。
・農業濁水は上流できっちり取り組んでいただいているとお聞きしたので、
　下流でもしっかり取り組まないといけないと感じた。
・自分も山の整備をしているので、情報共有をしたい。
・南部は住宅街や工場等が多く、子供があまり川に入らない。
・平家ボタルを増やす活動をもっとしてはどうか。
・当協議会でも石部の頭首工を視察しており、上流から下流まで肌身感覚で繋がりを感じた。
・流域という単位に注目していくのは面白い。

（その他ディスカッション）

・ホタルについて、湖南、小佐治双方から活動の紹介があった。
・自転車で移動することはよいと思う。また、木材も外材を利用するのは購入のコストは安いかもしれないが、環境負荷も考慮すると社会的なコストは高いと考える。
・河口ではヨシ原の活動はしているのか？　→松沢さんが小学生たちと活動を実施されている。
・小佐治・大原の活動に女性はいないのか？　→あまりいない。

湖南流域環境保全協議会.indd 27　2022/04/22 12:08

中村伝三さんのお話の様子

6-2　下流地域（令和元年12月22日）
野洲川北流跡、幸津川樋視察

（案内者 野洲川でんくうの会・副会長中村伝三さん）

旧中洲村の服部町に生まれた。昭和28年の台風25号の際に15歳だった。

・野洲川の伏流水は農業や養蚕に利用されていた。

・昭和46年に野洲川放水路の起工式があった。野洲川の改修に当たっては、
地元の人が田んぼを提供したり、集落を移転したり、苦労があった。当時、賛否両論だった。

・昭和50年には稲作の原点ともいえる服部遺跡が見つかった。

・でんくうの会として、野洲川下りのイベントを行っている。

・通水が昭和56年で、当時は魚がいなくなったが、だんだん魚も戻ってきていると感じている。

・洪水の心配が軽減され、自然が戻ってきて、新しい河になったことを喜んでいる。

<北流の左岸の堤防跡の高台>

野洲川の堤防跡の高台に上り、
当時の風景を想像する。

北流の左岸の堤防跡の高台

※旧野洲川は上の写真の奥の方を通っていた

<幸津川町樋等視察>

・

幸津川町に残されていた樋を見学。樋を利用して
野洲川の水を取水し、集落まで水を運んでいた。

横たわっている樋

根木山さんのお話　緩傾斜護岸の様子
※堤防から河までが緩やかな坂で繋がっていて、降りやすい。

野洲川中洲親水公園視察

（案内者 案内者 琵琶湖河川レンジャー　根木山恒平さん）

<野洲川中洲親水公園視察>

・中洲学区は５つの地域で構成されている（幸津川町、立田町、小浜、服部、新庄）。

・放水路通水40周年が経ったが、昔は住民が自由に旧野洲川に入っていたのに、野洲川が改修され、国が管理するようになり、勝手に入れなくなったという感情の人もいる。

・７年前から川、まちづくり、地域づくりのために河を整備するよう国交省は方針を変えてきている。

・中洲は一つという合言葉があるが、住民アンケートでは５地域（幸津川町、立田町、小浜、服部、新庄）で意識に差もある。

・もともと堤防が崖だったものを、人が入りやすい場所に変えた。

⇒緩傾斜護岸（写真）

・船着き場を作るのは実現しなかったが、いかだを上げるくらいの緩やかな坂はできた。

・緩傾斜護岸を作ったが、まだ利用が少ない。

・大人たちが子供の川遊びを見守るような大人の見回りグループをつくるような活動もしている。

<あやめ荘で湖魚料理>

・氷魚　・アユ

・鮒ずし　・鮒のお作り

・エビ豆・シジミ汁

・ワカサギのフライ

※食事中に各自自己紹介を行った。

湖南流域環境保全協議会.indd 29　2022/04/22 12:08